

私の死を望むパーツ

A part wants me to die

この記事は、cleanlanguage.com/a-part-wants-me-to-die (James Lawley)の翻訳です。

<翻訳者付記>

- ()で言葉を補っている箇所があります。
- 日本語で理解しやすいことを優先して翻訳しています。そのため、直訳するとわかりにくいと判断した部分は、意図が残るように注意して抄訳もしくは意識しています。(「言葉の機能を優先して翻訳してほしい」が著者の希望でもあるため、著者了解済みです)

以下の注釈付き記録は、ウクライナの心理学者と心理療道家のグループの中で行ったクリーンランゲージとシンボリック・モデリングの14回目の公開デモンストレーションのセッション記録です。セッションのクライアントは、ウクライナの心理学者と心理療道家グループの中のメンバーです。

このグループは、戦争によるトラウマが継続的に続いている中、自分自身とクライアントを支援するためにクリーンなアプローチを活用したいと考えています。過去の3年間で、このグループとのセッションは、トレーニング、実際のクライアント事例のスーパービジョン、そして参加者のライブ・ファシリテーションを組み合わせた形へと発展してきました。

今回のウェビナーでは、「パーツ・ワーク」に対する私たちのアプローチを紹介し、その後、デモンストレーションと短い振り返りを行いました。

このデモンストレーションの記録には注釈が付いています。ここでは、いつどこで、どのクリーンランゲージの質問を問いかけるかを決定する際に考慮した点を示しています。

このセッションには、クライアントの次のような状態に対して、ファシリテーションをどのように行ったかを示す興味深い特徴がいくつか含まれています。

- 複数のパーツ(ペルソナ)を持っている。
- 記憶・物語・反応・洞察が入り混じっている
- 「ママがいないと生きていけない」と感じ、死にたいと思っている子どものパーツ

「パーツ」とのワークの導入

みなさん、こんにちは。今回のウェビナーはキプロス島から配信しています。そのため、珍しいことに、ウクライナにいる皆さんと同じタイムゾーンにいます。

アンナ(Anna Stativka)が今日のテーマとして、興味深いテーマを提案してくれました。それは、「クリーンランゲージをパーツワークの中でどのように使うか」です。

ほとんどの心理療法の方法には、「パーツ」や人の一部と向き合う考え方が含まれています。もちろん、ジークムント・フロイトはイド、自我、超自我の概念を提唱しました。交流分析では、親・大人・子どもというパーツが使われています。ゲシュタルト療法のフリッツ・パールズは、トップドッグとアンダードッグの概念を持っていました。カール・ユングは元型(アーキタイプ)を提唱しましたが、これも一種の「パーツ」と考えることができます。そして、近年人気が高まっている手法として、インターナル・ファミリー・システム(IFS)があります。これは、人が扱うさまざまな「パーツの家族」の概念を含むアプローチです。

みなさん、これらの「パーツ・ワーク」のいくつかに馴染みがあるのではないかと思います。いかがでしょうか？

[(参加者から)ノンバーバルで同意あり]

今日登場する事の中で最も役に立つものは、おそらく「パーツ」に対する私たちの考え方をお知りになることかもしれません。というのも、今、述べたいいくつかの方法とは違う考え方のものだからです。まず認識すべきことは、「パーツ」という発想がメタファーだということです。

人間には、パーツ(部分的なもの)はありません。人間は全体的なもの(whole)です。しかし、自分のさまざまな側面について語るのには「パーツ(一部)」は便利な方法です。私たちの手法では、「パーツ」を「意図を持つシンボル(象徴)」として扱っています。

何らかのシンボルは、ただその何らかをシンボル化(象徴化)したものにすぎません。シンボル達はクライアントのメタファー・ランドスケープの中に登場しますが、「何かしたい」と望んではいません。ある時には、「石」はただの石です。

けれど「何か起きることを望むシンボル」もあります。そのようなシンボルは、クライアントのシステムの中で、すでに活発な役割を演じているか、もしくは、演じたいと望んでいます。私たちは、そのようなシンボルのことを、「知覚者(perceivers)」と呼んでいます。知覚者は、メタファー・ランドスケープの中で知覚することができ、何か起きることを望みます。

その意図を持ったシンボルが、「パーツ」に「最も近い」ものだと考えられます。つまり、知覚者(perceiver)の種類は非常に幅広いのです。子どもや親、モンスターといった一般的なペルソナだけではありません。(メタファー・ランドスケープの中では)、物体や身体の部位などにも感情や思考があったり、何か起きることを望んでいたりすることがあります。私たちはそういったモノも「知覚者」だと捉えています。

私たちは、それらをパーツとは考えていません。「意図を持つシンボル」だと考えています。例えば、もしもクライアントがこう言ったとしましょう。

「洞窟があります。暗いんです。それで、暗闇が怖がっています」

私たちは、クライアントが「私のインナーチャイルドが怖がっています」と言ったときと同じ方法で、この「暗闇」を取り扱います。

また、もしもクライアントが「葛藤中なんです。片方の手はこれが欲しい、もう片方の手はあれが欲しいんです」と言ったとしましょう。私たちは、その「手」を取り扱います。「批判的なパーツ」、「遊びに満ちたパーツ」というような、より伝統的なパーツを使ってクライアントが葛藤をシンボル化した時と同じように扱います。

ここまでお話ししたことが最初に考慮する必要があることです。

二つ目です。私たちは、すべてのパーツを平等に扱います。クライアントがそのパーツを良いものと考えていようが、悪いものだと考えていようが、また、そのパーツのことをポジティブと考えていても、ネガティブと考えていても。また、そのパーツが、クライアントに親切でも、クライアントを傷つけていても、パーツがクライアントに痛みを与えていようが、どのパーツも、同じクリーンランゲージの質問を問いかけられることになります。

私たちはクライアントに「2つのこと」をしてもらうよう、ファシリテーションします。

1つ目は、シンボル/パーツが何らかの形を持つようにすること。できれば場所も。

2つ目は、シンボル/パーツの「起きてくれたらいいこと」(シンボル/パーツの望み)を明らかにすること。

そして、3つ目のポイントがあります。

パーツが1つだけということは決してありません。いつでも、互いに関係し合う2つ(以上のパーツ)が必要なのです。最低2つです。クライアントが二つの隔たっている部分を想像するとしたら、その隔たりは、クライアントがパーツを2つ生み出すことを意味しています。

そして、その2つのシンボル/パーツには、常に何らかの関わりがあります。シンボル/パーツ同士が相互作用していたり、もしくは、ただ単に互いの存在を知っていたりするなら、両者には関係性があるでしょう。

私たちは、クライアントが、「パーツ同士の関係性も含めた内的世界やメタファー・ランドスケープ」に意識的になれるように、また、「(パーツ同士の)関係性そのもの」に意識的になれるように、ファシリテーションします。

そして、クライアントがそうできるとしたら、それは、(その2つのシンボル/パーツがあるのとは)別の場所からその2つのパーツを観察している「第3の知覚者」がいることが前提になります。つまり、クライアントはこの時点で、より高次で包括的なレベルで作業をしていることになります。

その後、私たちは、クライアントに以下のようなことを問いかけます。

「そして、(その状態)の時、あなたは何が起きてくれたら好いのでしょうか？」

クライアントの中には、「自分自身のある部分を取り除きたい、もしくは、消滅させたい」と考えている人もいます。しかし、それが実現できるのはまれです。

例えば、あるクライアントは批判的なパーツを窓から投げ捨てたいと望んでいました。私たちは問いかけました。

「そして、あなたには、その窓から、その批判的なパーツを投げ捨てることができますか？」

クライアントは言いました。「はい」

「そうすると、何が起きますか？」

批判的なシンボル/パーツは、窓から投げ捨てられ、地面に衝突して死んでしまいました。クライアントは「そのシンボル/パーツは死んだ、もしくは、死んだに違いない」と考えました。ところが5分後、その批判的なパーツは、批判しながら戻ってきて、セッションの間中、クライアントを批判し続けたのです！

そのパーツ自身の立場からしてみれば、批判的なパーツもある重要な役割を果たしているのです。ですから、批判するのをやめることも、消滅することはありません。

パーツを消滅させたり消し去ったりするより、パーツが他の何かに変化する方がより一般的です。シンボルの形が変化すれば、位置や働きも変化します。そうすると、シンボルとクライアントの関係性は変化します。

これが、シンボル/パーツの意図や目的、その働きをはっきりさせることが重要な理由です。そして、このことは、「クライアントは様々なことを発見することがある」と意味しています。

だからこそ、それぞれのシンボル/パーツの働きや目的、そして意図を見つけ出すのが重要なのです。それは、時には、クライアントが難しいことを発見することもあることを意味します。恐ろしく厄介なことをしたがるパーツもあるのです。ですが、私たちは、どちらの側にもつきません。たとえクライアントが、「あるシンボルより他のシンボルを選びたい(優先させたい)」と望んだとしても、私たちがそうすることはありません。

私たちのやり方は、何かを起こそうと試みたり、いくつかのパーツを統合させようとしたり、葛藤を解消しようとしたりするものでありません。そうではなく、クライアントが「自分のシステムが、今、どのように動いているのか」、「自分はシステムがどのように働くのを**好む**のか」を理解するのをサポートします。そして、その後起きることを見守ります。

私たちは、「メタファー・ランドスケープの中で自発的に変化する何か」をひたすら待ち続けます。それは、クライアントが「(クライアント自身の)メタファー・ランドスケープからのフィードバック結果」を得ることでもたらされるものです。その後には私たちはその変化とのワークに取り組み、その変化がどうなるのかを見届けます。最終的にどうなるのかは、私たちには全くわかりません。

[ペニー]

モンスターに追いかけていたあるクライアントのことを思い出します。そのモンスターは彼女を何年の間、追いかけていました。彼女は、モンスターを追い払うためにやれることは全部やったんです。(でも追い払えなかったんです。)というのも、そのモンスターは彼女を捕まえて傷つけると決意していたからです。

私は問いかけました。「そして、そのモンスターのその決意は、どんな決意なのでしょう？」

この質問は、モンスターに向けてのものでしたが、クライアントのシステムは「決意」に関するクライアント自身の経験にアクセスしました。そして、クライアントは言いました。「それは強い決意です。容赦ない決意です」

「そして、その決意はどこにありますか？」

彼女は言いました。「[体を触りながら]ここにいます」

その瞬間、クライアントはモンスターの視点を手に入れたのです。それで、私たちは「ここ」の形や大きさを展開し、メタファー(に変換できるよう)に展開し始めました。クライアントは、「そのような決意こそが、自分が人生全てにおいてずっと必要としていたものだ」ということに気づきました。

そして、彼女はこう言いました。「モンスターがいつでも私を追いかけるのも無理はありません。だって、モンスターは、私には自分が必要だと知っていたのだから」

この例が示しているのは、みなさんにはシンボルの意図を予想できないということなんです。もしもそうできるなら、すでにクライアントはモンスターを取り除いていたことでしょう。・・・ですが、幸い、彼女のより広い(視野を持つ)システムが、クライアントの望みよりも賢かったのです。

どなたか、「パーツ」をどのように取り扱うかをお見せするワークにお付き合いいただけますか？ 普段は決して聞きませんが、デモンストレーションのためにお聞きします。私たちと一緒に取り組んでみたいパーツをお持ちの方はおられますか？

[有志の参加者が名乗りでる]

注:

C:クライアント F:ペニーまたはジェームズ 通訳:アンナ(Anna Stativka)

デモンストレーション中、ファシリテーター側から導入した言葉は、以下を見分けやすくするために、太字文字で表示しています。

1. 言葉の出所:ファシリテーターなのか、クライアントなのか。
2. クリーンランゲージの質問形式

注釈中の「プロブレム」「レメディ」「アウトカム」の意味は、PRO モデルの定義に添います。

PRO モデルについて、詳しくはこちら(日本語):<https://www.clean-wiki.com/post/coaching-for-pros>

セッション

訳註:
セッションの性質上、以下の言葉を翻訳し分けています。
「ママ」:原文mom 「お母さん」もしくは「母親」:原文mother

順番	発話	注釈
1F	では、あなたが取り扱いたいものは何ですか？（あなたは何とワークしたいですか？）	通常の始まりの質問ではありません。トピックが「パーツを取り扱う」と予告されていたため。
2C	<p>私は古くからの葛藤を抱えています。これまでもそれに取り組もうとはしてきました。でも、いまだに葛藤が戻ってくるんです。この葛藤は、喪失と繋がっています。</p> <p>5年以上経ちますが、母が亡くなりました。母は高齢だったんです。最後の一年、母の病状は非常に悪いものでした。健康上の理由から、母の人生は楽なものではありませんでした。</p> <p>私は、喪う準備はできていると思っていたんです。母はまもなく逝ってしまうし、自分はすでにこの喪失を受け入れていると思っていたんです。ですが、</p>	クライアントから多くの情報が提供されました。この経験に彼女が与えた名前は「葛藤」

	<p>しばらくして、気づいたんです。自分が自己破壊的なことを始めたこと、それから、自分の健康状態も喪失に反応していることに。</p> <p>葛藤とのワークに取り組み始めてみると、自分の中のあるパーツが、「ママが死んだら、私も死ななくちゃいけない」・・・つまり、そのパーツがママなしで生きるのは不可能だと考えているのを発見したんです。</p> <p>その他のパーツは、生きてがっています。私には子供がいます。孫もいます。私は生きていたいんです。私にはたくさんの計画があります。ですから、その他のパーツは、反対なんです。そのほかのパーツたちは、私の人生が継続することを望んでいます。でも、今、語ろうとしているこのパート、このパートは、ママなしで生きるなんて誠実（正直/honest）じゃないと思っているんです。だって、ママが死んじゃったんだからと。だから、自分も死ななくちゃいけない。つまり、これが葛藤です。</p>	
3F	<p>なるほど。それで、その葛藤がある時、あなたは何が起きてくれたら好いのでしょうか？</p>	<p>現在の状況をふまえた上で、望むアウトカムへと誘う。</p>
4C	<p>私は死にたがっているこのパーツが好きなんだと思います。このパーツに、死にたがるのをやめてもらいたいんです。（私は）彼女がとても悲しんでいること、それから、彼女にとって大きな喪失だったことは理解しています。それから同時に、私がこのパーツに理解してもらいたいのは、ママだって、自分が死んだからといって私にまで死んでもらいたいは望んでいないこと。</p> <p>ですが、自分の中にあるこのパーツにはとても強いこだわり（identification）があって、それは論理的ではありません。このパーツには論理がないんじゃないかと思います。</p>	<p>クライアント供給のレメディ:「(パーツに)死にたがるのをやめてもらいたい」</p>
5F	<p>なるほど。それで、あなたはパーツに死にたがるの</p>	<p>クライアントが示した最初の場所</p>

	をやめてもらいたい。そして、それで、ママが死んだら生きるのは不可能な その パーツはどのあたりにありますか？ その パーツはどのあたりにあるの？	「自分の中」を追いかける。
6C	このパートは、私の鳩尾の中と、胸の中、それからいくつかはここ、私の喉に何かがあります。	
7F	鳩尾の中、胸の中、そして、喉。 そして、それがあなたの鳩尾の中、あなたの胸の中、あなたの喉の中にある時、 その パーツに 大きさ や 形 はありますか？	クライアントがこのパーツに形があるかどうか注目するように誘う。 これは、 <u>文脈的にクリーンな質問</u> です。居場所があるモノは、高い確率で、大きさや形を伴い、空間を占有している可能性があります。
8C	はい。大きさは、これくらい [ジェスチャーで示す] 形はわかりません。	
9F	それには、大きさ [ジェスチャーを再現する] がある。そして、それはそこにある、鳩尾、胸、喉の中にある。そして、それがそこにあってその大きさ (のとき)、そのパーツについて他に何かありますか？	
10C	そのパーツは感情的で、興奮しています。・・・興奮ではなくて、喜びのような興奮ではなくて、ある種の不安。	
11F	そして、そのパーツは感情的、不安で興奮している。そして、それで、あなたは その パーツがあなたに生きていてもらいたくないことをどのようにして 知 りますか？あなたは どう やってそれを知るのでしょうか？	パーツの望み「私に生きてもらいたくない」の根拠(エビデンス)に、クライアントが注目するように誘う。 この質問は、 <u>文脈的にクリーンな質問</u> です。なぜなら、クライアントには、「そのパーツにとっては、この発言は真実である」ことを知る方法が何かあるはずだからです。
12C	私が、そのパーツが生きていたくないことを知る方法。そのパーツは、すごく悲しいんです。そのパーツは、ママに似ていることを望んでいて、実際に (私の) 他のパーツを攻撃するんです。というのも、ママが死んだ後に、私の免疫疾患が始まったからです。このパーツが、私の免疫システムに働きかけて、免疫システムが、外部からの有害なものを攻	

	<p>撃するのではなくて、私自身の身体を攻撃するように仕向けているように見えるんです。それに、そのパーツはヒステリックな小さな子供のように見えるんです。そして、このヒステリー、この子供は誰がなんと言おうが耳を貸しません。ただ、周囲のものを全部破壊しているんです。</p>	
13F	<p>そのパーツは小さな子供のように見える。そして、その小さな子供は何歳くらいなのでしょう？</p>	<p>「小さな子供」というメタファーに注目する。この質問は、「文脈的にクリーンな質問」です。子供には年齢があるからです。</p>
14C	<p>5歳か6歳です。</p>	
15F	<p>5歳か6歳。うん。そして、5歳か6歳がヒステリーのとき、5歳か6歳は何を着ているのでしょうか？</p>	<p>[セッション後のディスカッションを参照]</p>
16C	<p>2つのイメージが変わるがわるに浮かびます。黄色いドレスを着ているか、パンツ一枚か。</p>	
17F	<p>イメージが変わるがわる。[C:はい] そして、5歳か6歳はヒステリー、そして、とても悲しい、そして、黄色いドレスかパンツ一枚、そのような時 (when)、そのヒステリーの後に何が起きますか？</p>	<p>子供のヒステリーは、永遠には続かないことが多いです。「ヒステリー」の後、「子供」のシンボルはどんな状態になるのでしょうか？</p>
18C	<p>子供はエネルギー切れで、自分のヒステリーに疲れています。そして、誰かに抱きしめてもらいたい。でも、そこに誰がいるのかがわからないんです。そして、そのせいで、その子供はただとても疲れて、眠ってしまいます。それで、今、私にわかるのは、周りには何人かの人がいること。父とおばあちゃん。そして、人生のこの時期に、これは現実の状況として本当にありました。私がこの年頃だった時に、ママが大病にかかって、緊急入院を余儀なくされたんです。彼女が生き延びるかどうか、誰にもわからなかったんです。それから、子供の頃にこれが現実の状況だった時には、私はヒステリーは起こしませんでした。ただ、とても怯えていました。</p>	<p>クライアントが、「子供」のシンボルとの類似点がある記憶と相違点のある記憶を物語る。</p>

19F	<p>そう、現実の状況があった。そして、この子供、鳩尾の中、胸の中、そして喉、今、そこにある、5歳か6歳の子供は、ヒステリーでとても疲れている、そして、エネルギー切れ、そして、眠る。</p> <p>そうすると、その子供が眠った後には何が起きますか？</p>	<p>子供は、永久には眠り続けられないものなので、「5歳か6歳」が眠った後にする経験は何だろう？</p>
20C	<p>[沈黙] 今、私は彼女をハグして（抱きしめて）、ケアして、眠らせてあげたい。落ち着かせてあげたい。</p>	<p>クライアントは、私たちがした質問ではなく、「抱きしめたい」という欲求に興味を抱く。</p>
21F	<p>そして、今、あなたは彼女をハグして、ケアしたい。そして、そのように彼女をケアするそのハグは、どんなハグですか？</p>	<p>クライアントが注目しているものについていく。</p>
22C	<p>ただ、彼女をハグして、眠らせて、落ち着かせたいんです。それで、私は質問を理解していなかったかも。</p>	
23F	<p>どんなハグ？を理解していなかった？</p>	
24C	<p>すごくいいハグです。とても優しいハグ。自分がとてもとても幼かった時の状況が蘇ります。多分、私は7ヶ月か8ヶ月くらいだったと思います。耳の中に感染症があって、とても痛かったんです。あれは、元旦の夜だったと思います。ママがいました。ママは、一晩中、私を腕の中に抱き続けてくれました。すごく痛くて、私が泣き続けたからです。ママが一晩中そうしてくれたことを覚えています。そして、やがて、感染症の症状がおさまって、その後、私は落ち着いて、そして眠ることができたんです。それで、私が、今、この小さな子供にしてやりたいハグは、このハグです。このハグは、私が7ヶ月か8ヶ月だった時に、ママが私にしてくれたハグととてもよく似ています。このハグは、この小さな子供、今、6歳のこの子供の痛みを落ち着かせると思っています。</p>	<p>クライアントが話を自分の人生における重要な出来事に切り替える。そして、プロセス上、情報の中で最も目立つ部分は、今、ここで、彼女が「ハグ」を「利用しよう」としていること。</p>
25F	<p>それはとても優しいハグ。そして、そのハグは痛み</p>	<p>クライアントを（「ハグしてあげる」と</p>

	を落ち着かせることができる。そして、そのハグのその優しさはどこからやって来るのでしょうか？	いう行動(33F 参照)に誘う前に「優しさ」の源泉へと誘う。
26C	ママから。	
27F	ママのどのあたりから？	
28C	ただママから。	
29F	そう、そして、そのママからの優しさに大きさや形はありますか？	クライアントが「言葉を物質化する」(デイビッド・グローブ)ように誘う。
30C	はい。ママの体、ママの指みたいに見えます。それで、それは普通の人間の体よりもちょっと大きいみたいです。それから、いくらか周囲を照らす光。マッチが周りを照らすみたいに。	このシンボルが、普通とは違うことを示す2つの示唆:「普通より大きい」・「周囲を照らす光」
31F	いくらか周囲を照らす光。 普通より大きな お母さんの指の周囲を照らすその光、優しさがやってくる場所、について他に何かありますか？	
32C	照らす光について。それは、ママは、自分の親から光をもらって、それから、ママが私の弟や私に光をくれた。	
33F	そして、あなたのお母さん、ママは、自分の親からその光をもらった。彼女はあなたとあなたの弟にそれをあげた。そして、あなたは眠っている5歳か6歳をハグしたい。そして、あなたは その疲れて眠っている その5歳か6歳を ハグできますか？	クライアントは 20C で、「彼女をハグしたい」と言っていました、彼女にはそれができるのでしょうか？この質問を 21F で問いかけるのではなく、クライアントにこの特別なハグの本質を理解する時間を与えたいと思いました。
34C	はい。	
35F	そして、あなたがその子供をハグして、その子供は眠っている (as) 、そのあなたのお母さんがあなたにくれた光には何が起きますか？	この質問を問いかけた理由:2つのシンボルの接点(この場合は「ハグ」)を問いかけることが他の変化への序章となることが多いため。
36C	光はただここにあります。ただ存在します。	この場合はそうなりませんでした...
37F	そして、その光がただ存在するとき、それから何が	

	<p>起きますか？あなたが その疲れて眠る その子供をハグする時。</p>	
<p>38C</p>	<p>この時期、この6歳の子供は病院に行きたいんです。ママとのところに。彼女は、父親か誰かに頼んで、その時ママがいるところに行きたいんです。そして、起こっていることを話したいんです。なぜなら、この時期に関連付けが生まれたんじゃないかと思うんです。というのも、この年齢の頃の私の記憶に穴があるので、解離が起きたんじゃないかと思うんです。</p> <p>それから、この時期に関わる重要なことが他にもあります。この入院の後、ママの気管支喘息が始まったんです。そして、私には、彼女の生死に対しての責任が生まれました。日中、父は会社にいたからです。ママが喘息の発作を起こしたら救急車を呼ぶ責任が私にはあったんです。それから、（私は）ママに薬を飲ませたり、背中をマッサージしたりしないといけませんでした。それで、自分が注意しなかったり、遅すぎたりしたら、ママが死んでしまうような気持ちでいました。だから、私は子供だったけれど、同時に、ママの命に対する責任も負っていたんです。</p> <p>それから、今思うと、その時、ママと自分を同一視していたのかもしれませんが。救急車を呼ぶタイミングを感じとる必要があったからです。私は自分の体でそれを感じとる必要がありました。そしてそのために、おそらく、ママと自分を同一視したんです。</p>	
<p>39F</p>	<p>そして、ママとの同一視があったとき、あなたは6歳、そして、それを感じる必要があったとき。それが6歳の時に起きたことだったとき、あなたは何が起きてくれたら好いのでしょうか？あなたは、今、何が起きてくれたら好いのでしょうか？</p>	<p>この質問では、複雑な描写を踏まえて、クライアントにワークの方向性を定めるよう誘っている。</p>

40C	<p>今、ちょっと驚いています。並行しているものがあるにもうひとつあるからです。それで、自分が起きて欲しいことがわからないからです。</p> <p>そして、それと並行しているものがあって、それはママが死にかけていたときのことで、彼女は病院にいて、そして、すでに意識がありませんでした。それで、私はママの世話をしていました。病院に行くと、彼女の面倒をみていたんです。</p> <p>彼女の体をふいたり、手を握ったり、抱きしめたり。彼女は、私に手を握られたまま亡くなりました。確かに、ママが小さな少女かのように、私は彼女を抱きしめ続けたんです。</p> <p>だから、一方では、私の大人のパーツは、ママがひとりです。死ななくてよかったと思っています。つまり、自分が彼女と一緒にいたこと。</p> <p>そして、もう一方では、彼女が死んだのは正しくないと思っています。私は彼女に生きていて欲しかった。もっと長生きして欲しかったんです。</p>	<p>「驚き」は新しい何か生まれる(創発される)前兆のことがよくある。</p>
41F	<p>あなたは、お母さんにもっと長生きして欲しかった。そして、あなたは、並行するものに驚いている。そして、今起きて欲しいことがわからない。そして、あなたは、疲れて眠っている5歳か6歳に、優しいハグをした。そして、あなたが、5歳か6歳に、その優しいハグをしたとき、あなたからその優しいハグをしてもらった5歳か6歳は、今、何が起きてくれたら好いのでしょうか？</p>	<p>クライアントが起きて欲しいことがわからないなら、おそらく、「5歳か6歳」がクライアントが起きて欲しいことを知っている。</p>
42C	<p>私の今の洞察では、おそらく、小さな少女が1人いるだけではなく、その中の2人。そのうちの1人が、この6歳。そしてもう1人は、私の腕の中にあるママ。でもそれは、彼女の居場所ではありません。</p> <p>この6歳、彼女は降りてきて、生きたい。幸せになりたいんです。</p> <p>優しさとか愛とか、ママがここに残すべきものを、頭では理解しています。でも、それが体にはないみたいなんです。</p>	<p>クライアントが「洞察」についてまとめている。</p> <p>当初、クライアントは「この6歳」は生きていたくないと考えていました。今、クライアントは、6歳が「生きていたい、幸せになりたい」ことを知っています。</p>

	そして、この6歳と、死にかけているママの両方が、私の体の中にいる。そんな感じなんです。	
43F	OK。あなたは、そのように並行するものを得ました。そしてこの洞察を得ました。それで提案があります。これら、それから起きた全てと一緒にいる時間をとってください。そして、今の状態を踏まえて、何が起きてくれたら好いのかなあと考えてみてください。[沈黙] 今、その6歳は、落ち着きたい。そして、幸せになりたい。そして、それは、死にたがっていた6歳とは違います。ここまでで止めても大丈夫ですか？	
44C	はい。	
45F	OK。では、グループ全体で話しましょう。	
46C	今は、死にたがっていたり、生きてくなかったのはこのパーツじゃないように思います。このパーツじゃない。そうしたがつっていたのは、ママみたいです。彼女は死にたがっていた。そして、落ち着きたがつていました。そうです、彼女は疲れているんです。だから、これはまた別のパーツです。これは、死にたがっている私のパーツではなくて、安らかに眠りたいママです。	クライアントが、パーツ間に新たな区別をつけました。そして、「これは、安らかに眠りたいママ」だと発見しました。
47F	そして、それを知ることは非常に価値があります。そして、後から、ワークに取り組む必要がある何かが登場するでしょう。 時間の関係で、今はここで止めたいと思います。ボランティアをしてくれて、ありがとう。	

所要時間:40分(通訳時間も含む)

セッション後のディスカッション

ペニー[グループに向けて]:

ご清聴ありがとうございました。あと数分ありますが、セッションのプロセスについて何か質問はありますか？

参加者1:

はい。質問があります。5歳か6歳のシンボルが登場したとき、着ているものを問いかけたのはどうしてですか？

ペニー:

その質問が、メタファー・ランドスケープの中の「シンボルに形を与える」からです。その「5歳か6歳」は、ただの(年齢を表す)概念ではありません。(訳註: 5歳か6歳=シンボルの名前)

今いるその子供(5歳か6歳)には何か着ているものがあります。もし子供のシンボルが服を着ていれば、その服を身につけている体があるはずで、そして、体は何かしらすることができます。体は動くからです。これが、私たちが、たまに、子供が身につけているものを問いかけることがある理由です。また、もし、子供(のシンボル)が身動きが取れなくなっていたり、隠れていたり、動きたがっていたりする場合があれば、足に注目すると、クライアントの助けになるかもしれません。

参加者2:

これまでに私が見たデモンストレーションと比べると、(今回のデモは)質問を問いかけた回数が少なかったように見えました。

ペニー:

いい着眼点ですね。

クライアントの題材が持つ性質の関係上です。特に、「クライアントに死んでもらいたい、そして死ねる」というシンボルが含まれていたのを考慮しました。それで、いつもよりもさらにスピードを落としました。クライアントの描写には複雑なものが多かったので、私たちは、クライアントの「5歳か6歳に死にたがるのをやめて欲しい」という望みにもっとも関係して

いそうな部分を慎重に選びました。

この話は非常にデリケートな題材です。それに私たちは、ランドスケープの中にある全てのシンボルを最大限に尊重したいのです。私たちには、セッションがどちら方向に進むべきなのかが全くわかりません。ですから、プロセス自体のペースにまかせて、プロセスを解きほぐしていきました。

ジェームズ:

終わる前にひとことだけ。

このセッションがそうだったように「パーツ」が子供だった場合、そこにたくさんの記憶が関わっていることがよくあります。私たち誰もが、かつては子供だったからです。

記憶、それから、たった今クライアントにこの場で起きていることを念頭においてください。クライアントは、過去と現在の狭間でさまざまに並行しているものを生み出し続けます。

それでいいんです。多くの興味深い物事は、その中から現れます。

そして、クライアントが自分の経験について考えていようといまいと、私たちは、セッションの間中、(その時々)「今、あるがままの」クライアントと「今、あるようにある」シンボル、その両者と作業をします。

このケースで起きたことのうちで興味深かったのは、誰が誰をハグしたか、誰が誰にハグをされたかに象徴されるさまざまな関係性をクライアントが見つけたことです。

終盤までに、クライアントは「母親のパーツは安らかに眠りたがっている」という結論に辿りついていました。もしセッションを続けていたら、おそらく私たちは、このパーツが抱く新しい望むアウトカムとの作業に取り組んだでしょう。私たちに、この新しいアウトカムの登場を最初から予見することができたでしょうか？

こういうセッションは複雑です。5歳か6歳のパーツがありました。それから、7、8ヶ月の子供の物語、それから、ある時期にかけての母親の病気の記憶。そして、母親の死。さらに、クライアント自身の健康問題。

(セッション中)クライアントは(それらを語ると)同時に、それらを追体験しています。そして、この全てに反応します。ファシリテーターが複雑さに振り回されないことが重要です。この全てを解き明かす責任の所在は、クライアントにあります。(ファシリテーターにはありません)

ファシリテーターとしての私たちの責任は、創発され解き明かされる必要がある物事が、創発され解き明かされるように、クライアントをクリーンにファシリテーションすることです。

私たちの役目は、クライアントがプロセスを進め続けられるように手助けすることです。私
たちには、このセッションの効果を知ることができませんし、クライアントにもまだわかって
いないでしょう。数日、数週間、数ヶ月かけて、よりはっきりすると思います。

ご清聴ありがとうございました。